

2024年度 事業報告

社会福祉法人 六心会

1. 2024年度 事業報告の概要

- 業績等
 - 収益
 - 全体の収益は、前年度比5.1%増となった。
 - 小規模多機能ホームでは、年度前半から登録者数を堅調に延ばし、収益が大きく向上した。
 - 特養では入院のための空室状態が長期化したこと、GHでは退去後の新規入所者受け入れに時間を要したことにより稼働率が低下し減収となった。
 - 稼働率
 - 小規模多機能ホームは、営業活動を積極的に行い、受け入れ体制が整ったことにより稼働率が大きく上昇した。
 - 入所系サービスは、特養・グループホーム共に前年度を下回った。
 - 収支改善
 - 積極的な営業活動の結果、小規模多機能ホームでは継続的に新規利用者を獲得することができたが、入所系サービスにおいては不十分であった。
 - 人員配置の適正化と業務の効率化を推進した。
- サービスの質
 - 利用者最優先で、個々の技術面のみならずチームとして高品質な介護サービスの提供体制を推進した。
 - 利用者のADLの維持・向上のため、協力医療機関から定期的に専門職の受け入れを行った。（理学療法士・園芸療法士）
 - 他施設との差別化を図るため、オレンジカフェのイベントとして、ボランティアによる歌体操やコーラス、職員が企画運営する工作教室などを定期的に開催した。
- 人材の確保、育成
 - 特定技能生の外国人人材2名を初めて採用した。
 - 採用強化のためにホームページをリニューアルし、ネット求人等の媒体も利用して新規採用に繋げた。
 - 新入職員や介護未経験者に対するOJT研修体系の確立した。

- ケアアドバイザーとの連携により、施設介護マネージャーの指導体制を強化した。
- 法人、グループ内の連携
 - 施設運営、営業についてのノウハウなどを共有することで、効率的な経営基盤の構築、サービスの質向上に寄与した。
 - 勉強会、技術交流を通じて情報共有を行った。
- 地域貢献活動
 - 認知症の方の相談窓口としてのオレンジカフェの開催日や営業時間を増やし、地域に根差した福祉サービスの提供を行った。
- 新規事業、改修工事
 - 厨房のスチコン・冷蔵庫・冷凍庫の機器の買い換え（丸紅基金社会福祉助成金）
 - LED改修工事
- 感染症等への対応
 - 標準予防策、環境整備など感染対策の徹底
 - 協力医療機関による研修と施設内ラウンドを実施
- 補助金・助成金一覧
 - 吹田市介護保険サービス事業所物価高騰対策応援金
 - 大阪府介護職員処遇改善支援補助金
 - 丸紅基金社会福祉助成金

2. 運営状況（稼働率、利用者数）

※（ ）の数値は対前年度の増減

高齢者事業

● 特養（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
地域密着型特別養護老人ホーム緑 【29名】	95.6%	94.4%（▲1.2%）	97.4%（+3.0%）

● グループホーム（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
グループホーム里 【18名】	92.8%	89.0%（▲3.8%）	96.8（+7.8%）

● 小規模多機能ホーム（登録率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
小規模多機能ホーム楽 【25名】	48.0%	80.0%（+32%）	92.0%（+12.0%）

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 六心会

対象事業所

高齢者事業

地域密着型特別養護老人ホーム縁（特養）【定員：入所-29名】

グループホーム里【定員：18名】

小規模多機能ホーム楽（小規模）【登録定員：25名】

高齢者事業

地域密着型特別養護老人ホーム緑（特養）【定員：入所-29名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 稼働率の低下により、前年度比 0.7%減となった。
 - 稼働率
 - 待機者が少なく、退所後の新規入所までに時間を要したこと、入院のための空室状態が長期化したことにより稼働率が低下し、94.4%（1.2%減）となった。
 - 収支改善
 - 認知症チームケア推進加算Ⅱ、高齢者施設等感染対策向上加算Ⅰ、Ⅱなど、積極的に新規加算の算定を行った。
 - 待機者を確保するため、小規模多機能ホームとの連携を密にした。
 - 人員配置の適正化と業務の効率化を進めた。
 - 食材費の高騰に伴い食費の値上げ(1,750円⇒1,800円)を行った。
 - サービスの質
 - 入院や処置等に迅速に対応するため、協力医療機関との連携を強化した。
 - 主治医、関係者の協力のもと、看取りの実施を行った。
 - オレンジカフェの営業時間延長やボランティアの受け入れを増やし、イベントの企画を充実させた。
 - 人材の確保、育成
 - 法定研修の他に、離宮千里山研修を定期的に開催し、安全対策や感染予防等職員研修に力を入れた。
 - 特定技能生の外国人人材（インドネシア人2名）の採用を推進し、人材の確保に取り組んだ。
 - 地域貢献活動
 - 地域の福祉避難所としての体制整備と備品のチェックを行った。
 - オレンジカフェ営業時間延長で相談援助窓口の機能を拡張した。
- 主な指標

- 入所（ショートの入所含む）

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率（全体）	95.6%	94.4%（▲1.2%）	97.4%（+3.0%）
平均要介護度 入所	3.9	3.8（▲0.1）	3.8（±0）
単価（人・日）入所	15,799円	15,703円(▲96円)	15,758円(+55円)

グループホーム里【定員：18名】

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 稼働率の低下により、前年度比4.4%減となった。

- 稼働率

- 介護度の高い入所者が立て続けに退所(入院及び死去)となったことで、その後の急な入所の調整が上手くいかず、稼働率は89.0% (3.8%減)となった。

- 収支改善

- オレンジカフェのイベント等を通して、地域の方々に広く施設を知ってもらえるよう営業活動を行った。
 - 認知症チームケア推進加算Ⅱ、高齢者施設等感染対策向上加算Ⅰ、Ⅱなど、積極的に新規加算の算定を行った。
 - 食材費の高騰に伴い、食費の値上げ（1,750円⇒1,800円）を行った

- サービスの質

- 協力医療機関や平成豊中訪問看護ステーションとの連携により、入院や処置など迅速な医療を行った
 - 主治医、関係者の協力のもと、看取りの実施を行った。
 - 個別ケアの推進によりBPSDの症状の激しい方への対応を強化して、サービスの質の向上を図った

- 人材の確保、育成

- 法定研修の他に、離宮千里山研修を定期的で開催し、安全対策や感染予防等職員研修に力を入れた。
 - ケアマネ・リーダーを中心にOJT研修を強化した

- 地域貢献活動

- 地域の認知症の方の相談窓口としてオレンジカフェの営業体制を充実させた。（毎週火曜日10時～16時の営業）

- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	92.8%	89.0% (▲3.8%)	96.8% (+7.8%)
平均要介護度	3.2	2.8 (▲0.4)	2.6 (▲0.2)
単価（人・日）	16,981円	17,127円(+146円)	17,082円(▲45円)

小規模多機能ホーム楽（小規模）【登録定員：25名】

● 事業報告の概要

○ 業績等

■ 収益

- 年度の前半から登録者数20名以上を確保出来る体制が整い、前年度比58.8%増と大幅に収益を上げた。

■ 稼働率

- 登録率は前年度を32%上回った。

■ 収支改善

- 営業・広報活動など各部門の協力のもと、職員一丸となって積極的に活動を行った。
- 泊りサービス中心、通いサービス中心、急な利用依頼など、利用者の多彩なニーズに個別に対応した。

○ サービスの質

- 良質なサービス提供につながるよう、生活ニーズの把握に努め、個別対応を強化した。
- レクリエーション・イベント活動の回数を増やし、利用者満足度のアップを図った。

○ 人材の確保、育成

- 法定研修の他に、離宮千里山研修を定期的に開催し、安全対策や感染予防等職員研修に力を入れた。
- 利用者の増加に伴い、介護職員の増員のため採用の強化を行った。

○ 地域貢献活動

- 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所へ定期的に訪問し、連携の強化に努めた。

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
登録率	48.0%	80.0% (+32.0%)	92.0% (+12.0%)
平均要介護度	2.2	1.9 (▲0.3)	1.9 (±0)
単価（人／月）	235,958円	242,698円 (+6,740円)	249,623円(+6,925円)